

10月のハイライト

- ふいご修理開始
- チェストの修理継続中
- 鍵盤の修理検討
- アクション改良検討・作業継続中
- スウェルシャッター取外し

➤ ふいご修理開始

先月の調査結果を元に、ふいごの修理を開始しました。劣化した革はふいごの構成部品に強固に接着されていますので、これをノミやスクレーパーを使って丁寧に取除いていきます。この際、木部を傷つけてしまうと修復後の耐久性などに影響しますので、慎重に根気よく続ける必要のある仕事です。革が接着されている部品は多数あるため、まだまだ続く見込みです。

平行して、新しく貼るための革の用意も進めています。周囲を塞ぐリボン状の革は事前に準備できますが、角部などの特殊形状のものはふいごが部分的に組み立てられた段階で現物にあわせて採寸・カット・端部漉きを実施します。



分解が進むふいご



新しい革を用意中

➤ チェストの修理継続中

チェストの修理も継続中です。これまで大きな風漏れが発生していた箇所は、新たにより耐久性が期待できる方式に変更を行いますが、そのための構成部品を製作中です。既存の寸法に合わせた正確な設計・加工が求められるため、慎重に進めています。



寸法書き中



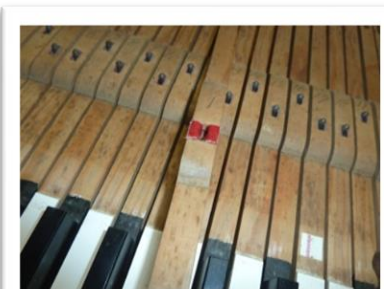
組付け状態

➤ 鍵盤の修理検討

取外した鍵盤の状態確認も行っています。フェルトやクロス劣化も見られたため、交換予定です。



鍵盤外観



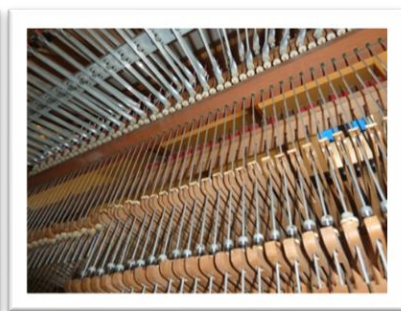
劣化した
ブッシングクロス

➤ アクション改良検討・作業継続中

先月に続き、さらにアクションの分解を進め、問題点の洗い出しを行いました。全体の状態が把握できた結果、当初は考えていなかった箇所についても、この機会を逃しては後追いでの実施が難しい箇所は改良を行うことにいたしました。アクションの部品はその性質上多数の部品が使われているため、作業量も多くなります。ふいごが修理されるまでの間に改良完了を目指します。またアクション部品の再製作のために、円筒形状の正確な穴あけ・加工が必要となることになりました。これを実施するため、新たに重田所有の旋盤を設置しました。作業性向上のため、専用作業台も作っていただきました。



上鍵盤アクション



マニュアル/ペダルカプラー(連結)アクション



ペダルアクション



旋盤を設置

➤ スウェルシャッター取外し

オルガンはパイプから鳴る音の大きさ自体を増減することは、その原理上できません。このため、鍵盤を押した際に一度に鳴るパイプの数をストップを切り替えることで変えたり、ケースの中にパイプ群を閉じ込め、その前面によろい戸を設けてその開け閉めで音量変化をつける方法などがあります。後者はスウェル機構という名前があり、よろい戸のことをスウェルシャッターとよびます。橋本教会のオルガンにもスウェル機構がついています。上部にシャッターがあることをご存じの方も多いかと思えます。ただ橋本教会のオルガンは移設の際に一部改造がされたことでシャッターを開け閉めしてもほとんど音量の増減に反映されない状態になっていました。またシャッターのすぐ裏には頻りに調律を行う必要があるパイプがありますが、シャッターによって手が入りづらく、メンテナンス性にも難がありました。そもそも橋本教会のオルガンの規模の楽器ではスウェル機構自体がついていないことも多いです。そこで今回の改良作業ではスウェル機構を取り除くことにしました。これによりメンテナンス性が向上するだけでなく、音もより前に出てくるのが期待できます。シャッターの代わりには新たに製作する扉を設置する予定です。



スウェルシャッター



取外し後